

# やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	37 / 2016 / 24 - 27 (再編集版)
タイトル	「森の広場」市民観察会 第19～21回
著者名	編集部

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

## 「森の広場」市民観察会 第19～21回

編 集 部

### □ 第19回観察会(2015年5月10日)

毎年、春・秋の2回開催なので今年は10年目の節目の開催になる。

今年は「予算化」して貰った「名札製作費」で一応「耐候性」のあるものの完成を鹿内博青森市長に報告する意味もあり、市長の出席を依頼していた。

あいにく当日は「昭和大仏」でのイベントと重なったため、市長と一緒に遊歩道を歩くことは出来なかったが、数分間だけ市長に「名札」完成の報告を行い、市長からの挨拶もあった。市側(青森市教育委員会事務局文化スポーツ振興課)からは新任の担当課長の木村久美子氏以下スタッフの方々数人も一緒に散策された。

当日の参加者は28名で、参加者の中にはリピーターもおられ、芝生の上でサクラや新緑を愛でながらお昼を食べるのを楽しみにしている方もおられる。

今年は異常に早く雪が消えたため春咲きの草花もサクラ類もほとんど終わり、やや寂しい観察会になったが広報掲載原稿の提出期限が約2か月前なので開催日を適合させるのはなかなか難しい。天候も一時は時雨模様の天気で「霰」も降るなど不安定な天候だったが、散策開始時間以後は次第に天候も回復していた。



鹿内市長に名札の説明



市長の参加者へのあいさつ



ガイドの説明を聞く参加者



終了後の昼食のひととき

昨年から取り付けたままで「越冬テスト」中の名札には「剥落」していたものもあり、補強対策の必要性も感じられた。しかし、普通紙にパソコンでプリントアウト後、ラミネート加工をすれば一冬雪の下に埋もれていても文字などの退色変化は見られず木本類では恒久的に使用可能であることが分かった。草本類に使用した園芸用支柱は挿し換えの簡便さはあるものの、雪に埋もれば支柱が折損する可能性があるため、適宜挿し換える必要性はある。

早春の「カタクリ」や「スマレ類」など夏季には消滅するものもあり、いっぽう、春には認識不能でも秋季に花を咲かせるものもあり、これらの挿し換えをどうするか?(人手が必要)が問題であろう。

ラミネート加工された「名札」の「剥落」防止には6mm長のホッチキス針(専用の「Vaimo11型器」が必要)で十分固定出来るので、近々すでに取り付けた「名札」の補強が必要である。

(2015.5.22 五十嵐正俊記)

---

### 鹿内市長挨拶の要約

青森市民の「森の広場」は、青い森に相応しい自然が残されています。

行政だけでは維持できるものではありません、市民の皆様の力があって初めて継続して行けるものです。

今後とも行政と市民が一体となり進めて行きたいと思っておりますので、宜しくお願いしたいと思います。

---

(2015.5.10 小関孝一記)

### □ 第20回観察会(2015年10月18日)

観察会は、春の5月と秋の9、10月に行われてきたが、秋は実りの季節、なかでもキノコの幸は多くのファンを引き付けています。そこで第20回はテーマをキノコに絞り広報PRをしたところ多くの参加者で賑わいました。(下:当日の参加者の記念撮影、次ページ:広報チラシ)



第20回観察会  
の参加者

# 第20回「森の広場」市民観察会

## 10月18日(日)



## 秋の「森の広場」へようこそ！ 「秋の草花」観察会

暑い暑い夏でした。一方ではやや強い雨もありましたのでキノコの菌糸も良く広がったようです。秋の1日を散策しながら「ハナイグチ」や「ナラタケ」「ホテイシメジ」などを探してみませんか？

これらのキノコは「森の広場」に多い「カラマツ林」と相性の良いキノコとされています。当日はキノコ好きの皆様の参考にキノコ類の図鑑を揃えておきますので参考にしてください。また、「森の広場」の紅葉は10月中旬以降に始まりますので色づいた木々や秋に咲く草花なども見られることかと思えます。

第20回の節目の観察会でもありますので、最も遅い時期を選んで見ました。秋らしく色とりどりに変化した草木をご覧ください。

### 観察会当日

【日時】10月18日(日) 12:00~14:00  
 【受付開始】11:30~  
 (雨天実施、荒天の場合は中止)  
 【集合場所】「森の広場」管理棟前  
 【参加費】300円(傷害保険、テキスト代)  
 【ガイド】自然観察指導員、  
 森林インストラクター  
 【駐車場】100台駐車可能

### 参加申込方法

「観察会幹事」宛、はがき(住所、氏名、年齢)  
 又はメール(EM: [igamasa@jomon.ne.jp](mailto:igamasa@jomon.ne.jp))  
 でお申込みください。(10月10日(土)まで)

〒030-0042 青森市新城平岡 151-523  
 五十嵐 正俊宅「観察会幹事」

問合せ窓口：文化スポーツ振興課 TEL017-761-4509



主催 森の広場市民観察会実行委員会  
 (青森市 青森高校生物部 OB 会  
 やぶなべ会主幹)  
 共催 新城縁故者委員会

バス利用の場合  
 行き(岩渡行き)  
 古川バス停④ 11:03 森の広場前下車  
 帰り(古川行き) (時刻の改定有るかも)  
 森の広場前 15:03

## □ 第21回観察会(2016年5月8日)

「森の広場 市民観察会」は、2006年5月14日を第1回目として開催し、昨年で20回の節目を迎え、ことしは21回目の開催となった。

初回は参加者が112人と、これまでの最大。主催者は「森の広場市民観察会実行委員会」で、これは青森市に拠点をおく8団体で構成、専門家34人が指導に当たった。ときの青森市長・佐々木誠造氏も駆けつけ盛大な開会式を行った。(当会報 第20号、2006年6月発行)

ことしの第21回は晴天に恵まれ、「森の広場」は、オオヤマザクラやミズバショウ、カタクリなどが花期を過ぎていたが、まさに新緑の季節到来でカラマツの緑にヤエザクラが満開という素晴らしい景観に彩られていた。



新緑に包まれた「森の広場」

参加者は32人で、これまでとはまた違った雰囲気を感じ出していた。家族連れも多かったが、若い男女が目立った。グループごとに、講師がさまざまな植物や花の特徴を説明していき参加者の質問などに答えていくのが一般的だが、参加者が自らスマホなどで撮影し「これは何ですか?」と画面を見せる。さらに、それをダイレクトに知人に送信したりしているのである。時代は変わったな!というのが実感であった。



新緑の中で各種植物の観察を満喫



野外観察を終えてスライドで説明を聞く

(以上、編集部)